

関西遊覧

文化育む 場所

世代間交流を促し、多彩な知恵が交わされる場を作ろう——2012年夏、大阪市内に「大阪自由大学」(倉光弘己学長)が創立された。自前の市民文化の伝統が息づく地で、掲げる理想は「消費する文化から創造する文化へ」。学校教育法に定める大学と異なり、決まった教室やカリキュラム、卒業証書などはない。誕生から3年。今は、営利を目的としない団体に適用される「一般社団法人」になり公開講座、シンポジウムなど各種イベントを間断なく催している。集いの場は小サークルの趣だが、講座の中身は濃い。地味でも息の長い活動が足腰の強い文化を育むのかもしれない。【有本忠浩、写真・宮武祐希】

老いも若きも知恵の寄り合い 大阪自由大学

玄月さんの話に聴き入る大阪自由大学の聴講者たち—大阪市北区で



☆連続歴史講座「大衆音楽史の群像」シリーズ「笠置シズ子の戦中と戦後〜『フギの女王』を育てた大阪的心情」(講師はフリーライター、砂古口早苗さん) 8日14時半、大阪市北区芝田2、上田女子服飾専門学校本館。参加費1000円、定員50人。
☆うめきたサロン「ことばの磨き方〜私の創作ノートから」(ゲストは歌人、道浦母都子さん。聞き手は倉光学長) 9月4日14時、大阪市北区大深町3、大阪ガスエネルギー・文化研究所都市魅力室会議室(グランフロント大阪ナレッジキャピタルタワーC713号)参加費1000円、定員30人。
詳細、問い合わせは大阪自由大学事務局(大阪府吹田市豊津町9、電話06・6386・4575、kansaiforum@gmail.com)

作家囲む50人

先月13日午後6時過ぎ、大阪市北区の上田女子服飾専門学校を会場に公開講座が開かれた。20〜80歳代までが汗をぬぐいながら三々五々集まり始める。顔

との対話形式で進められた。聴衆は約50人。

生の文学談議

玄月さんは、大阪(人の風土、氣質を象徴するような作品を多数残した織田作之助(1913

濃く広く開かれた活動

見知り同士が「久しぶり。こう暑いとかなわんな」と交わす光景は寄り合いの場さながら。午後6時半、連続講座「挑戦する表現者たち〜大阪に生きる」シリーズの「大阪の文学」その魅力と可能性」と題する講演が始まった。作家、玄月さん(写真)をメインに親交のある作家、金真須美さん(同)ら



ら47人の文学を話の主眼にしながら自らの文学観にも触れた。オタサクの「世相」「可能性の文学」を挙げ、「僕は大阪出身でここを拠点に書き続けているが、大阪の風俗、世相、人物などの描写をむしろ避けてきた。そこは彼の姿勢と対極にあるかもしれない。大阪がかつての魅力が減っているのか、ある

もその様子が鮮やかに浮かびあがってくる。更に『夫婦善哉』も現代ならフェミニストが顔をしかめるような描写もあるが、人間の喜怒哀楽や本質的、普遍的なことを描いているから今でも読み継がれていると思う」とその魅力を紹介していった。

金さんが、玄月さんの芥川賞受賞作「蔭の棲みか」を引き合いに、「この小説はドストエフスキの作品のように『神の視点』で一つの集落を根城に生活を営む人々をとらえている。小説を書くうえで、視点の置き方などは考え抜くことですね」とどこか問ひかける。例えは「

知識欲満たす

人稱は、語り手の(息を)世界しか描けない不自由さはある。しかし、優れた書き手は、語り手周辺の人間の言動などから広がった世界を見せることもできる」と小説作法も披露。聴衆との質疑応答も熱が入った。

同大学の理念は「大正七昭和初期、知識欲にかられた農村青年らが、長野県上田市で自主的に運営した教育機関「信濃自由大学」(1921年開校、後の上田自由大学)のように、その時代の文化運動の流れを支えし促すような試みをする」と。

これまでの活動は公開講座(文楽、落語、演劇、映画、文学、婚活)▽連続講演会(講師は初代同大学長で評論家の木津川計さん、宗教学者の山折哲雄さん、臨床哲学者の鷲田清一さん、ノンフィクション作家の後藤正治さん、作家の黒川博行さんら多数)▽歴史シンポジウム▽公開サロン——など多岐にわたる。

現在、国内には学校教育法で定める大学、短大が国公私立を合わせ約1200校もある。その他、企業主体のカルチャーセンター、自治体の高齢者大学など学びの場は多い。では、大阪自由大学の特色は。同大理事長の池田知隆さんは「このころ大学に研究成果、実績を短気意に求める風潮が強まっている気がする。そのうえ、大学が単に就職活動の場と化してしまい、深く広い教養を身につける余裕が教える側、教わる側になくなっていく。世代や人種を超えてさまざまな体験者が寄り合う中でこそ得られる知恵があるはずだ。そんな場としてこの大学を更に育んでいきたい」と話す。

大阪の文化の土壌を「層肥沃にしよう」と、今年から「大阪自由大学賞」を設立(募集は既に締め切り)するなど次のステップに向けて着実に歩んでいる。

次回回は9月4日掲載